

2がわのくもの子の会だより

〈H.28, (22)〉

年があけて、もう、ひと月すぎようとしていますね。今冬は、暖冬といわれていたのですが、急激な冷え込みが、ついにかかり、本来にふさわしい気候になっていきますね...



感染症とか特にはやる時期です。うー、油断できませんね...。みなさんもお身体 おだいじに...。病気にまけないう、冬のこの時期を、今年もやりきればいいですね。私も、子どもと、がんばります。
～ 幼児期にどんどん自然と親しもう～

感力、感性という二つがありますね。これは、体のアツサ、身体能力のこと。感性豊かというのとは、うつのアツサ、感じ身本の能力が優れているということ。普通の人には、わからない、微妙な違いも感じられるということです。

その能力を鍛え上げるには、いちばんいい方法は、幼児期に、たくさん自然と触れ合えることです。自然をうづみ感じて、わが子という育ち方をしている、いくら学問を詰め込んだとしても、ものごとの価値をどう判断しているかわからなくなってしまうので。

これから自然との共生が必要になっていく時代に、生きるためにも、まず、身近に自然とどんどん触れさせていきたいものです。
(子育てとは、とて大抵の27のセントリ)



「甘えさせ」と「甘やかし」はどう違う？～
甘えには「良い甘え」と「悪い甘え」があります。良い甘えが「甘えさせ」、悪い甘えが「甘やかし」です。この2つの違いがわかっていないと、子どもがやるべきことを親がやったり、過干渉や要求をすべて受け入れてしまう過保護、あるいは自立のためには甘えはさせない、と極端に育て、一切甘えさせない突き放しになったり、いずれも心の成長に適切な甘えが得られず、ため、大きになっても寂しさや怒り、周囲への不信感を抱え続けたり、自己肯定感の低い人になる可能性があります。
(のびのび子育て、子どもが本心に伸びる育て方)